

日 時 平成 21 年 1 月 16 日（金） 18 時から 20 時

会 場 宮前区役所 4 階第 1 会議室

参加者 高木部会長、河井委員、鈴木和子委員、千葉委員、恒川委員、松井委員、渡邊委員、
永野委員長（オブザーバー）
中山主査、成沢職員（以上、事務局）
岩下研究員（コンサルタント）

傍 聴 0 名

開会（中山主査）

- ・会議の公開について

議事

前回議論の振り返り（コンサルタント）

コンサルタントが主に資料 1 に基づき、前回議論の内容や意見等の振り返りを簡単に行った。

資料説明（事務局）主な説明・確認点は以下のとおり。

資料番号無し…年度内及び来年度のスケジュール案が示され、了承された。

- ・年度内は 3 月に区民会議フォーラム、その前の 2 月に部会をもう一度開催する。
- ・今期は 2 年度をかけて区民会議の提案をまとめる。また、中間報告は今年度末の区民会議フォーラムの開催後にその結果も踏まえて行う。
- ・平成 21 年度も、全体会を 5、8、11、2 月に開催し、その間に毎月部会を開催する。
- ・再来年度の予算編成時期を踏まえ、できれば 8 月ごろまでに提案のまとめを行い、予算への反映を目指す。

資料 1…これまでの議論の整理。課題解決策の欄で、本日の検討課題事項を整理し、確認した。

資料 2…これまでの資源リストを簡略化し、資源分類別、地域別（町名別）にまとめたリスト

資料 3…前回部会の議論を受け、区内の団体やイベントに地域の資源や宝物についての情報提供を呼びかけるチラシのたたき台案

（ 1 ） 具体的な課題解決策について

高木部会長 やはり課題解決策は中学校単位くらいの地域で考えていきたいです。

鈴木和子委員 例えば私の所属する文化協会や観光協会の 100 名以上の会員に資料 3 のようなチラシを配るといことも、協力させていただけると思います。今回の資源は新しいものを見つけようということなのでしょうか？

高木部会長 そのあたりはこだわらず、各自が良いと思うものをあげていただければよいと思います。

松井委員 文化協会は 2 月の 28 日に大きなイベントを予定していますね。

鈴木和子委員 講演会です。900 名くらいの方が入れます。その時にいろいろな資料やチラシの配布も頼まれていますので、その中に入れ、合わせて舞台の上で説明、呼びかけなども可能だと思います。

恒川委員 裏面の記入者の氏名や連絡先を記入する欄は必要なのでしょうか？

鈴木和子委員 やはり誰がどんな情報を出したかはある程度把握したいと思います。

コンサルタント 情報提供に対するインセンティブにも関わってくると思います。

高木部会長 連絡先などは“差し支えなければお書き下さい”などと書き添えても良いかもしれませんが、情報をどう活用していくのかはまだわかりませんが、どんな世代の方がどんな資源を出していただいたのかというところはやはり知りたいところです。既存の団体の中でこういったところに、こういった形で配布、アプローチをしていくのか、ということが重要だと思います。ただ学校については、もう年度末が目の前ですので、何かお願いするようなことはなかなかできないと思います。

松井委員 学校は特に授業外の事をやっていただくには、ある程度時間が必要です。ただ、最近では総合の学習などで地域と何かやらなければ、何をやろうかと、迷っている先生方もいらっしゃいます。実はグリーンフォーラム21で校長会に許可を取ったうえで、各学校に環境学習のプレゼンをしており、数日前に犬蔵中学校で、来年度以降ならば、ぜひ盛り込んでいきたいし、地域との活動をしたかったので助かるという反応をいただきました。

ひとつ気になるのは、ただ配るだけではやはり影向寺など、代表的で大きな資源ばかりに目がいつてしまうのではないかと。地域でこまめに資源を探しており、地域ごとに資源をあげてほしいという説明をしていかないと、多くの資源が集まってこないのではないかと心配です。

事務局 宝さがしのプロセスを大事にしようという意見が部会の共通認識だと思いますが、このチラシを配っても、ただ個人レベルでこれを出していただくだけでは、次につながりません。配る対象や説明を考えていく必要があると思います。

高木部会長 今回はモデルケースとして捉えて良いと思います。今回集める情報やそのプロセスがそのまま提案になるのではなく、あくまで提案のための研究、模索として考えれば良いと思います。その意味では一部の団体や地域でまずやってみて、全域である必要もない。できそうなところ、頼めそうなところからやっていければ良いと思います。

松井委員 たとえば犬蔵中学校区をモデルケースにするなら、犬蔵中学校区の人だけが考えるのではなく、外の地域の人も考えて良いと思います。また一人ひとつではなく、どんどん出していただけるような形にしたいです。

鈴木和子委員 自治会単位なども考えられます。

高木部会長 こういうやり方をしてみたら、こんなことができたという形をつくっていききたいです。

鈴木和子委員 ただ配るだけでなく、趣旨を説明していくことが非常に大切になりますね。

高木部会長 文化協会で配ったら、犬蔵中で配って見たら、ガーデニングクラブで配ったらこんな資源が出てきた。ということをつくつかやりたい。現段階でやり方を絞り込むことはなく、つくつかやってみて、例えうまくいかなかったとしても、それを踏まえて提案ができれば良いと思います。まず事例がでてこなければ、提案もできません。

松井委員 資源の共有につなげたい。そのためには写真なんかも入れられものに仕上げていきたい。時間がある程度かかるとは思いますが、地域ごとにディスカバーウォークのようなイベントをやってみても良いと思います。多摩川でプランをつくった時は区別にカメラもって、多摩川沿いをあるくプロジェクトをしながら、まとめていったことがありました。

コンサルタント 資源募集のチラシは何種類か必要だというご意見が前回ありました。たとえば表面は宝探しの趣旨等を伝えるもので、共通でも良いかもしれませんが、裏面は配る対象によって、呼びかけの言葉や資源の集め方なども変わってくるでしょう。今回の裏面はFAXで送ってもらうことを前提としてつくったものです。

松井委員 段階を踏んでいく必要があると思います。

永野委員長 まだ資料のリストは机上で集めたもので、区民の意見が反映されていません。これから様々な方法で区民の意見を集めて、区民が共有する形にしていく。例えば、様々な団体やイベントに呼びかける。青少年指導委員会では今度ディスカバーウォークのイベントがあるので、そこで書いてもらう。あまりきちんとしたものが出てこないかもしれませんが、一度集めてみて、この部会でまた検討してみてもよいと思います。区民フォーラムのガリバーマップも区民の意見を集められる機会です。特にイベントや人のつながりに関連する資源がまだ少ないので、情報を集めたいです。

ディスカバーウォークでは、子ども文化センターのある宮前地区の4地区（有馬・野川・宮崎・宮前平）から鷺沼公園まで、ゲームなどをしながら、歩いてくる予定です。その中で、地域の宝物を探そうという設定もできると思います。

恒川委員 この部会で出たテーマを地域でどうやって発展させていくかが大事です。チラシの文面ですが、「宮前区を代表する」ではなく、「宮前区をアピールする」にし、「発信していきたい」という表現を使いたいです。また、地域に古くからいる人ばかりでなく、こどもたちの参加、こどもたちが考える宝物も意識して集めていきたいです。

事務局 いろいろなご意見がでしたが、全て一度にやることは難しいと思います。順を追って、まずいくつか並行して、子供向け、団体向け、イベント向けなどやってみて、検証していく。また、イベントで集める際は、その時だけですが、インターネットでうまく情報を集めるしくみもつくることができれば、ある程度長い期間で、写真なども効果的に集めることができそうです。

渡邊委員 インセンティブも個人賞だったり、団体賞だったり、集める手法に合わせて考えて、工夫できます。区民が応募したくなるようなものにしたいです。

事務局 ディスカバーウォークが一つでしたが、働きかける対象が具体的にあげていけると良いです。第1期の区民会議は議論と解決の動きが、うまくつながっていなかった面があった印象があり、提案に対して、実現が難しいものも出てきています。第2期では、検討と同時に、取り組みも試しながら、それも活かしつつ、進めていければと考えています。

松井委員 学校でも、アンケートのような形で記入をお願いする形なら、了解さえ得られれば、時間をかけずにできると思います。まずやってみて、集まった情報の活用の方法については、ゆっくり一緒に考えていけば良いかもしれません。

高木部会長 テストケースとして、あまり難しく考えずにやってみる。その様子で、集まった情報をみんなで活用し、盛り上げていく方法を考えていく。

恒川委員 情報収集は何回やってもよいと思います。

松井委員 学校の先生も地域のことをやりたいのだけれど、どうやっていいかわからない。「我々は地域の人ではないので、地域のことはわからないんですよ」と言っていた先生もいました。

恒川委員 きっかけづくりをうまくしていきたいです。

永野委員長 地域安全マップづくりを今学校でやっていますが、20年度に5校しかできず、21年度は8校くらいの予算がついています。

恒川委員 シニアにはシニアの提案をすればよい。まず材料が集まらなければ、提案もできないと思います。

松井委員 資源の共有は本当に課題です。今日はとなりで写真コンテストの審査をやっているのですが、本当によい資源がたくさんあります。

コンサルタント これまで出た文化協会の講演会、ディスカバーウォークにまちづくりひろば、その他学校なども具体的にあげればと思うのですが、どうでしょうか。

松井委員 犬蔵中などは話もしていますし、協力いただける要素があると思います。聞いてみないとわかりませんが。

永野委員長 グリーンフォーラムさんや、今度の映像コンクールなどもあると思います。2～3月にいろいろなイベントがあるので、いくつか聞ければ良いと思います。

松井委員 宝探しの期間ですが、1月から初めてはどうでしょうか。

高木委員 2月12日の区民会議で全体に図ってからになると思います。ラブ・みやまえ(まちづくり広場)が2月22日ですから、そこから始めて、5月くらいまではどうでしょうか。

河井委員 チラシをみて、これで終わってしまうんだ、ある期間で集めて、宝物を決めてしまうんだと思われるのは困ります。

渡邊委員 “第1回”とか書いてはどうでしょうか。

事務局 本当は集まった資源をどう活用していくかを示せばよいのですが、今回はテストケースということで、続いていくんだよということがうまく示せると良いです。

高木部会長 “パート1”という言い方で入れて、今回はこの期間ということにしてはどうでしょうか。

松井委員 最初の締め切りは、早くして3月末にしてはどうでしょうか。

高木部会長 集める対象にもよりますが、イベント中心ならば短期間でも可能だと思います。次年度の最初の区民会議前に部会で集まった資源を確認、検討する流れができると良いです。

コンサルタント 活用の手法までは難しいかもしれませんが、情報を下さった方や団体に対して、こういう情報が集まりましたというなんらかのフィードバックの方法は最初から想定しておかなければならないと思います。区民会議のフォーラムで発表する、区民祭などのイベントで発表する、インターネット上で発表するなどいくつかの方法が考えられます。

事務局 2月のイベントで集めた情報は3月の区民会議フォーラムである程度発表できると良いです。

恒川委員 区民の方にどんどん知ってもらうことが必要です。

高木部会長 なるべく期間をおかずに、フィードバックしていくことが大切だと思います。「こんなものもあるよ」ともっと集めるためへの呼びかけにもなると思います。

事務局 提案の前段階の素材集めなのか、提案する共有のプロセスの試行なのか、整理が必要のように思います。

高木部会長 広く捉えて、提案とプロセスと同時進行のようなイメージを持っています。

松井委員 提案するだけなら簡単なのですが、実際やってみないとわからないことがたくさんある。やりながら、成果を出すことを考えていきたいです。

高木部会長 実際に少し試してみないことには、提案もできないと考えています。パート1として実施して、ずっと続いていくことも意識していく。今回試験的にやってみたものを、今後全区的にやっついこうという提案、または、次回から更にスキルアップした形でやっていく手法の提案などが考えられます。皆でプロセスを楽しむ方法を意識していきたい。我々はまだ経験していないので、現段階では文章だけになってしまいます。

事務局 素材集めということでは、最初からあまり高レベルなことを求めすぎないことも必要かもしれませんし、宝さがしということだけにとらわれすぎないように注意する必要があると思います。

永野委員長 いろいろな働きかけや集め方をしないと、どこか偏ってしまい、深い提案にはならないと思います。集めた結果を区民会議で整理し、区民皆の宝にするための方法を提案していきたいです。

恒川委員 情報を集めたことによって、区民の関心がどこにあるのかわかってくれば、それを発展させるための手法が見えてきて、提案につながっていくと思います。

高木部会長 資源をアピールしていく手法も提案になると思います。例えば、横浜ではいろいろな区でゆるキャラがあって、それぞれの地域をアピールしています。こうしたマスコットやキャラクターづくりも提案になるかもしれません。コミュニケーションを豊かにし、コミュニティを盛り上げていくということがベースであり、宝探しが最終目的ではありません。

コンサルタント 最終的な目的は宮前区の宝や顔を決めることではなく、地域で宝物を共有することです。これがうまくいけば、むしろ宮前区全体の形にはならず、地域毎に競いあっていくような形でも良いのかなと思っています。

高木部会長 それぞれの地域で、「うちの地域が一番だ」となっていけば、それが一番楽しいですね。

コンサルタント 中学校区くらいの規模の地域をターゲットにしたいというご意見も出ていたので、今回はテストケースですが、全区的に配るのではなく、ターゲットをしばって、地域レベルでやっていく。宮前区の宝探しではなく、あなたの地域の宝探しと明記したほうが良いと思います。

永野委員長 野川かるたや落書き消し隊など、大事な資源がまだリストに出てきていないと感じています。その辺りをもっとひろい出したいという思いがあります。

高木部会長 進んだところは自分たちのキャラクターをつくっても良い。飛森では、とんちゃんにもーりくんという2匹の蛍のマスコットがあります。こんなのがどんどん出てきたら楽しいと思います。

河井部会長 “宮前区”をあまり強調せず、あなたの身近な地域の宝さがしということで良いと思います。

コンサルタント 集めた情報をどう活用していくか、もって見えてからでないと、全区的にはできませんね。

高木部会長 ただ、モデルケースとしてやっているということはホームページなどに掲載して、ひろく発信していく必要があると思います。

河井委員 最初は区民会議委員が所属する団体などでないと、なかなか主旨を伝えていくことも難しいのではないのでしょうか。

事務局 モデルケースを実施する具体的なイベントや団体名があげられると良いです。

コンサルタント まちづくり広場のガリバーマップで実施する場合、ガリバーマップ上の情報をいただいているのか、このチラシを配っていくのか、どのように進めていくイメージでしょうか。

永野委員長 このチラシを配布して、情報を記入してもらいたいイメージです。映像コンクールでも配布したいです。

コンサルタント その日のうちに回収するというのでしょうか。

永野委員長 イベントではそうなるかもしれませんが、団体の場合は少し期間もおけると思います。様々な集め方をして、厚くしていきたいです。

高木部会長 まず、まちづくり広場、映像コンクール、文化協会講演会、ディスカバーウォークでしょうか。

永野委員長 イベントに来ている元気な人たちばかりでなく、福祉の活動団体なども通じて、様々な人から情報を集めたいです。

高木部会長 飛森も3月に会合があるので、その中でワークショップ的に取組むことができるかもしれません。

松井委員 4月20日のさくら祭りなどでもできると思います。

事務局 まず今あげられた、2~3月のイベントで配る。それから区民会議の委員さんの関係団体に行くつか配る。さらに、可能であればどこか中学校1校で配る。このぐらいでまずどうでしょうか。

高木部会長 良いと思います。

松井委員 自治会などは難しいでしょうか。

渡邊委員 なかなか難しいと思います。できそうなところを選ぶ必要があると思います。一町会ではなく、役員会とかお茶のみ会、食事会などの規模ならできるかもしれません。

事務局 モデルケースとしてはそれでも良いと思います。

松井委員 そこから話題になっていけば良いですね。

事務局 あとはホームページでしょうか。

高木部会長 メールで情報を寄せてもらう形なら、写真を合わせて送ってもらうことも簡単です。

事務局 今ある資源のデータを綺麗にまとめて、千葉委員のぼーたろうなどで見てもらえるようになる
と良いです。区民会議委員さんの出身団体も様々な団体があります。難しいところもあるかもしれませんが、まず働きかけてみてはどうでしょうか。

高木部会長 3月のフォーラムでそれまでに集まった情報を踏まえて、話せると良いです。地域自慢につながっていくと良いですね。

事務局 将来的には区政30周年に向けての動きになればいいなと考えています。

松井委員 地域ごとに宝探しや磨きをかけるコンクールみたいになればよいですね。地域に誇りがもてるようになっていきます。

高木部会長 お祭りなどは他地域のものは全然知らない現状もあると思います。例えば馬絹の神輿は本当に大きくて立派なのですが、他の地域の人あまり知りません。

松井委員 観光協会の動きにもつなげていきたいですね。

高木部会長 改めて考えると宮前区って本当にこれだっというシンボルがありません。緑が豊かだとい
っても、多摩区や麻生区にもある。住環境はすごく恵まれているのですが。

恒川委員 発信していない面も感じます。例えば東高根公園だってすごい公園です。

高木部会長 食の文化で言えば、北部市場はもっとアピールしても良いと常々感じています。何億とい
うお金もつきこんでいる施設です。正に宝の持ち腐れです。関東地方では築地、横浜について三番目
に大きな魚を扱う市場です。良いマグロなども買えます。

コンサルタント 資源募集のチラシにいただいたご意見を反映させて、2月から配布ができればと思
います。

永野委員長 最終決定は区民会議ですが、企画部会で承認をもらえれば、配布を始めても良いと思
います。

事務局 区民会議委員関係団体にも、区民会議の後に持ち帰ってもらったり、送付をしたり、いくつか
の方法がとれると思います。

(2) 区民会議フォーラムについて

資料にそって、区民会議フォーラムの開催案について事務局が説明し、意見交換した。

前回の提示からの変更点については、取り消し線等で示した。事例紹介を分科会でなく、全体会で行
ってから、分科会に分かれることとした。

高木部会長 事例紹介の団体をどこにするかということですが、以前に野川かるたが上げられていま
した。第1期の委員でもあり、関わっている亀ヶ谷さんに、年末にお会いした際、こういうことで、依
頼がいくかも知れないとすでに軽く話してあります。カルタをつくっただけでなく、12月にカルタめ
ぐりという活用のイベントもしているので、とても良い事例だと思います。

松井委員 基本的な考え方がしっかりしていて、一過性のものではないですね。

高木部会長 カルタの一つひとつが宝物と考えられますし、それを磨き上げる試みをしています。野川という一つの地域での活動であり、発表としてもおもしろくなると思います。

永野部会長 資源を押し上げる方法に取組んでいるということですね。

河井委員 カルタはどのくらいのサイズなのでしょう。

高木部会長 普通のカルタと同じくらいのサイズだったのでしょうか。まだ全文字そろっているわけではありませんが、裏面に資源の解説がついています。野川カルタさんに事例としてお願いするということではよいでしょうか。あとは例えば鷺沼商店街のエコバッグなどどうですか？

松井委員 野川カルタでよいと思うのですが、事例が一つだけでは寂しい気がします。

事務局 現状の時間配分案では、事例を増やすことは難しいです。報告の時間を伸ばすなど、時間配分を変えることも、みなさんの意見が一致すればできます。

恒川委員 発表時間はあつという間だと思います。10分というのは少し短いように思います。

高木部会長 発表時間を15分とし、それぞれの部会から2事例ずつ紹介すると、あつという間に1時間経ってしまいます。

永野委員長 野川カルタは地域の資源を押し上げた手法として、紹介できる良い事例です。

高木部会長 カルタをつくっただけでなく、それを活用したところにも焦点をあてて、紹介をお願いしたいと思います。

恒川委員 野川カルタは、地元住民の自発的な発信から始まっていると思いますが、エコバックの方は少し性格が異なると感じています。事例は一つでも充分だと思います。

高木部会長 エコバックも新しいやり方の一つでもあり、エコにもつながっているところは良いと思いますが、この部会の事例は、野川かるたさんをお願いするということがよいでしょうか。

一同了承

高木部会長 分科会の議論の進め方ですが、ご意見ありますでしょうか。

松井委員 私は両方の部会の議論を聞きたい気持ちもあります。分科会にわけずに全員で共有することはできないでしょうか？共通する話題も出てくるように思います。

事務局 分科会方式を改めるのであれば、公園部会や企画部会にも投げかけないといけません。

コンサルタント 分科会に分けたのは、参加型で来場者の区民の方々と一緒に、それぞれのテーマについて掘り下げたいという話から出ていたと思います。

事務局 区民会議フォーラムとは別に両部会と一緒に検討を進める会があっても良いではないかという話も出ていたと思います。

高木部会長 公園そのものを宝と捉えることもできます。

松井委員 部会で作業を分けてはいますが、区民会議として、全体で考えていかななくてはならない部分もあると思います。

高木部会長 区民会議フォーラムでは、目先のことだけでなく、最終の提案や取り組みを意識した、夢を語っても良いのではないのでしょうか。

事務局 区民会議をもっと知ってもらうことと、区民会議のこれからの肥やしになるような議論をすることと、二つの狙いがあると思います。今回分科会に分けた主旨の一つは、来場者にもっと参加してもらおうということでした。

高木部会長 来た人に夢を持ってもらうには、最終的にはこうなれば良いということをもみんなで話してもらおうと、我々も再認識できるし、資源の情報の活用方法についても見えてくるかもしれません。

永野部会長 最初の各部会の報告で、部会の方向性や最終の目標を話す。それを受けて市民のみなさんと何をやっていくのかを話す。報告と事例、分科会がつながっていくようにする必要があります。

事務局 それまでに集まった資源の情報も活かせると良いですね。

松井委員 公園部会に意見を出したいというよりは、公園部会が何をやっているのか、もっと良く理解したい思いがあります。共通理解がもっと深められればと思います。

コンサルタント 区民会議の中で共通理解を深めることと、一般区民に区民会議を知ってもらうことと、目的を二つにするのなら、どちらを優先させるか考えておかなければなりません。

松井委員 一般の区民にとっても、両方の部会の議論を聞いたほうが、区民会議全体の主旨をよりよく理解できるのではないのでしょうか。

恒川委員 やはり一般区民の方が意見を出せるようにということを考えると、分科会かなと思います。

事務局 物理的に全体が一つの大きな会場のままですと、人によっては意見を出しにくくなってしまおうと思います。

高木部会長 確かに今回のこの会議室くらいの規模の方が、発言しやすいでしょう。

恒川委員 どちらの目的も大切なのですが、どちらかという、参加者の方かなと思います。分科会で、区民の方の声をいただき、それを全体会で報告するという流れが良いと思います。

高木部会長 第2期の区民会議の目的として地域のコミュニティの活性化、コミュニケーションを深めたいということをやまず最初に述べる必要があります。そしてそれぞれの部会から、ここまで検討してみました、こんなことを考えていますという報告があり、分科会ではやはり夢を語ってもらうと良いです。

コンサルタント どのような区民が何人くらい来ていただけるか、当日までわからない部分はありますが、分科会の運営はある程度イメージをもっておく必要があります。

永野委員長 それまでに集まった資源情報なども発表するのであれば、あなたの地域にはどんな資源がありますかという質問から入るのではなく、資源をどうやって共有し、宝に押し上げていくと良いと思いますかという質問から、投げかけていければ良いと思います。

コンサルタント 全体会だと人数も多く、会場も広いので全体に向かって「ご意見のある方は？」になるとと思いますが、分科会方式なら、互いに顔の見える中で「そのあなたはどう思われますか？」という呼びかけもできるのではと考えています。当日の参加人数によりますが。

事務局 机も取っ払って、車座で行う方法も考えられます。

高木部会長 大体開催のイメージが見えてきましたね。

事務局 野川かるたさんへの依頼ですが、どのような形で行いますか。すでに一度お話がいているのであれば、事務局からも正式なお願いをいたします。

高木部会長 関わった小学生にも来てもらえると良いと思います。

その他

・次回部会：3月3日（火）18:00～ 開催することとした。

（以上）